

二〇一五年五月一九日(参加者一四名)

昨夜雨に高鳴る瀨音若楓	若楓覆ふ奈落の瀨音かな	緑化園青葉若葉にたもとほり	那智黒の敷石濡らす青葉雨	昼憩ふ白つめ草の起伏野に	若葉風太極拳の深呼吸吸	緑さす手話の会話の指先に	一枚は幼稚園児の田植かな	夏霧の覆ひつくして山見えず	五月晴苑は百花の香に満つる	溪川の響く奈落の緑濃し	昨夜の雨ためて輝く薔薇百花	万緑へ蘭亭の簷いよよ反る	お茶室へ野草の小径風薫る	泉石をつゞりつゞりて糸とんぼ	山覆ふ靄にまぎるゝ花檣	バルコニー石の柱に薔薇攀じる	瀨しぶきや花十葉の群落到
宏虎	宏虎	小袖	小袖	小袖	かかし	かかし	かかし	わかば	わかば	わかば	わかば	菜々	菜々	菜々	菜々	菜々	菜々

万緑を突く蘭亭の簷牙かな	三角の屋根そのままに蔦茂る	河骨と顔つきあはす吟行子	バス停によき陰落とす緑樹かな	耳朶涼し水琴窟の筒に添ふ	山拓く自然公園百千鳥	薔薇の園羽ひろげたる天使像	尺取の一人をどりす糸の先	茶室窓昼なほ暗き緑雨かな	耳当てる水琴窟の音涼し	日焼して除染を担ふ男どち
満天	満天	よう子	よう子	ひかり	ひかり	ぼんこ	有香	よし子	明日香	せいじ

二〇一五年五月一九日(参加者一四名)

定例会の選